



若竹だより



266

【巻頭言】

社会を学ぶ

—若竹学園は『家族』です—

園長 野田大燈

一般社会ではお正月を 1 年の始まりとして「お芽出度う」と言って祝賀気分に入りますが、4 月は入学式・入社式等と覚悟を問われる行事があります。

随分以前には桜の咲いている校庭を母に手を引かれながら大きなランドセルを背負って入学式に臨んだ経験のある方もいらっしゃるかと推測しております。

担任の先生はどのような先生なのかな?、クラスメートと仲良くできるかな?、教室は何処にあるのかな…?、と不安でいっぱい入学式であったはずです。

家族兄弟姉妹の多かった時代は経済的には生活がとても苦しかったかもしれないが家庭の中に「社会」と言うものが存在していました。

体力関係から兄や姉の言う事には逆らえない理不尽さから「ガマン・忍耐」を学び、時には叩かれて泣きながらも絶対に得たものを譲らない、兄弟姉妹で仲良く等分に分け合う、助け合う、等を通して社会と家族のきずなを学んで来ました。

時代が変わり、社会全体が少子化傾向となつて一世帯平均児童数(合計特殊出生率)が平成 19 年は 1.34 人で、各家庭に子どもが 1.5 人弱で大半が 1 人っ子家庭と言えるのではないのでしょうか。

この状況では理不尽さ等の体験は不可能で「社会」を学ぶ機会が失われてしまいます。

家庭の中で社会を学ぶ機会を逸していた子どもが「保育所・幼稚園・学校」と言う器の中で生き生きとして生活できるでしょうか。

子ども対子どもの不適切な関わりに先生がどれほど介入・指導が可能でしょうか。

大人から見れば些細なことでも不登校になるケースもあるでしょう。

これは決して子ども社会のみを言うのではなく、新たな職場に配属された新入社員も同じことだと思えます。

最近、特に問題になっているのが大学は卒業できたが、就職先での社会適応が出来ずに自ら失職してしまうケースが増加していることです。

若竹学園では小学 2 年生から中学 3 年生の男女約 30 名が生活しています。

園内がとても穏やかな時もありますがその反対にとっても不穏な時もあります。

個々に抱えた精神的な問題や自分自身では何もできない家庭内の問題、そして学業の問題とストレスは大きく一触即発で暴力行為に発展することもあります。

子どもたちは「若竹学園」と言う器の中で社会を学んでいるのです。

治療施設である学園では暴力は許しません。暴力は犯罪であるからです。家庭内や学校・施設内も『社会』に変わりはありませんが、どうしたことか施設や学校では暴力を行っても許される、と誤解されている傾向があるように思います。

個々がストレスを抱えている中で自らを抑えて他からの挑発に乗らずにセルフコントロールできる人間になれた時に学園では「治療を終えた」と言うのです。さあ、社会に一步前進の 4 月です。

—了—

釣り

3 月 13 日釣りに行きました。ぼかぼかと釣りをするにはちょうど良い天気でした。

一回釣った魚を針がうまく引っかからず逃げてしまいました。二回目は釣った魚を岩場の隙間に落としてしまい「うわーついていない」と児童と一緒に大笑いしました。最後には岩場の隙間から魚を捕る事が出来ました。



食育(ホワイトデー)

3 月 14 日(月)に食育行事で男子とホワイトデーのポップコーン作りをしました。ポップコーンはキャラメル味と塩味の 2 種類を作りました。最初は「ポップコーンは簡単だから作るの面白くないんじゃないかな?」と言っていた子も、作り始めるとポップコーンが鍋

の中でポンポンと弾ける音が聞こえ始めると子ども達の興味がわき始め楽しそうに鍋を振っていました。音がしな



くなってふたを開けてみると、鍋いっぱいポップコーンが出来上がって歓声が上がっていました。キャラメルソースも焦がさないようにと丁寧に作っていました。思った以上



に楽しめた食育行事でした♪

太鼓演奏

毎月 1 回太鼓を習っていますが、実際に演奏を聴いた園生が少なかった事もあり 3 月 19 日に学校 1 階ホールで和太鼓集団『満天』による太鼓の演奏がありました。

何度も聞いている太鼓の音も迫力のある演奏に子ども達は、耳からだけでなく体の芯から感じられる響きに一人残らず魅了されていました。演奏を聞き感動した園生は、残って練習していました。



講演会・シンポジウム

3 月 26 日、香川県社会福祉総合センターにて、社会福祉法人四恩の里社会貢献事業として講演会&シンポジウム「一人で抱え込まないでー子どもを育むために私達出来る支援ー」を行いました。

今後も、法人内の特性を活かした活動を行っていただきたいと思います。



若竹学級だより

有終の美を飾る

3 学期になり、時間の経過が本当に早く感じられるようになりました。そのような中でも、子どもたちは学園生活に一生懸命取り組むことができました。

若竹ふれあいコンサート

3 月 10 日（木）、高松公演にいられていたオーケストラ・アンサンブル金沢よりお二人の奏者（チェロ・ヴァイオリン）が若竹学園にお見えになりました。

定番のクラシック曲だけでなく、今はやりのアナ雪やジブリの曲の演奏もあり 1 時間のコンサートはあっという間でした。



手を伸ばせば届く位置での演奏に、私たちはプロフェッショナルのすごさを実感しました。また、お二人の奏でる音色に本物がもつ優しさを感じることができました。

遊びから学ぶこと

「せんせ〜い、遊ぼ〜」

昼休みや放課後になると、校舎の玄関から元気な声が聞こえてきます。

警ドロで園庭を所狭しと走り回ったり、みんなでドッジボールをしたり、ともに遊ぶ中で教室では見ることができない、生き生きとした表情を見ることができました。

進路を切り拓く

「読み・書き・計算」とよく言われますが、子どもたちは音読、漢字練習、計算練習に意欲的に取り組みました。特に、中学生は英語の単語テスト、漢字の書き取りテスト、数学の 5 問プリントに毎時間繰り返し取り組みました。それらの習得状況に個人差はありますが、分厚くなったプリントファイルを誇らしそうに見せてくれる子どもの表情には、やり遂げた満足感がただよっていました。

中学 3 年生にとって避けて通れないのが高校入試です。今まで感じたこともない大きな不安と戦いながら、必死で受験勉強に取り組みました。おかげさまで、それぞれが志望していた上級学校への進学が決まりました。

下級生にとっても、それは大きな喜びであったようです。そして、（次は自分も…）と学習意欲をかきたてている生徒も見かけるようになりました。

本年度、5 つの重点項目（1. 子どもに寄り添った支援・指導、2. 基礎学力の向上、3. 自尊感情の育成、4. 体験活動の重視、5. 進路保障の充実）を掲げ、学習指導に取り組んで参りました。保護者の皆様、原籍校の先生方に見守っていただき、年度末を迎え、さらに来年度に繋ぐことができました。本当にありがとうございました。



カブト虫の幼虫

学園の温床の中にカブトムシの幼虫がいました。例年より気温の変化が激しかったのか幼虫は、少し深い所にいました。



子ども達は、スコップ片手に土を掘り返すとカブトムシの幼虫がなんと 100 匹以上いたのです。「出た出た～！えっ？どこ？」と声が行き交っていました。



カブトムシの幼虫探しの途中でコクワガタが現れました。

成虫になるまで大切に学園で飼育する事になりました。

農園

春のポカポカの暖かさもあり農園での作業もはかどっています。農園で作業している園生も力を入れて今度は何を植えたいという話が多く聞かれるようになりました。

今後も温度が高くなり、ほうれん草や水菜など作物が大きくなり収穫が出来るのを楽しみにしています。



～御寄附ありがとうございました～

NHK 歳末たすけあい寄付金

洗濯機、掃除機 各 1 台

たまや様 日用品一式

地方紙正月連合企画様 書籍

3 月行事

6 日 図書館

14 日 食育

19 日 太鼓の演奏・図書館

26 日 四恩の里講演会

28 日 卒園式

在籍人数 平成 28 年 3 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	1	5	6
	中学生	7	2	9
	その他	0	0	0
	計	8	7	15
女 子	小学生	3	0	3
	中学生	3	1	4
	その他	0	0	0
	計	6	1	7
合計		14	8	22

編集後記

学園でもちらほら桜が咲きはじめました。学年があがり皆の新しい一年が実りあるものになるように応援していきたいと思います。 児童指導員 太田 美千代

第 265 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈